「どうも失礼いたしました」と先生にハガキを出すと共に，女の子にも「先生がおかしな人でなくてよかったね」ともう一度書かざるを得なくなった次第でした．

さて先ほどのべた怪天体の怪発見ほどでなくとも，夜空の写真をとり，DP屋からうけとったものに，星図にない星がうつっているという新天体報告があとを絶たない．例外なく現像むらとかキズで，この種の報告が，まともなものであったことはない．

「ぼくは個人天文台を作りたい，それに当たって色々なしりょうがなくてはならない．したがってしりょうをおくって下さい」この例のように，写真を送れ，資料を送れと当然のことを要求するような調子のものが大変多い．「東京天文台では写真を含めて，研究資料を一般におわけしたり，販売するようなことは一切いたしておりません」とこたえる．

いろいろ書いて来たけれども，どういう質問にしても往復はがきで，一枚一問なら大抵すぐ返事はかける．然し返信料入り（または往復はがき）でないものが半数にのぼる．もっとも返信料つきだと返事を強制されている訳であるが，そうでなければ馬鹿ばかしい質問は没にしても，それほど気がとがめない．

しかし天文相談も，本当に大変なのは電話の方である．この方が数は多いし，暇な時にゆっくりこたえるという訳にもゆかないし，下らないと思っても没にする訳にもゆかないからである．

≪投　稿　欄≫

学会の体質

私が本会の通常会員となってから10年以上経つ．その間，年会での研究発表や，天文月報への投稿を拒否されたことが何度かある．特別会員にもこのような制限はあるかも知れないが，通常会員には特に厳しいように思う．本年3月末現在，通常会員は特別会員の3.6倍もいるが，役員および評議員がすべて特別会員から選ばれる以上，本会の性格が研究者的になるのは必然である．現定款がある限り，通常会員は常に受身であって，自主的な活動は出来ない．通常会員はいわば町人であり，特別会員は武士である．この封建性を私達は直視すべきである．定款第2章第4条には「天文学の進歩と普及」が平等にうたわれているが，現実には「普及」は「進歩」の背後にかすんでしまっている．

特別会員の中には，本会の学問的水準を低下させてはならないと主張する人があるが，これは通常会員を閉め出す口実となる恐れがある．大学が大衆化した結果，大学生の数は夥しい数にのぼり，ために大学の質は著しく低下したが，さりとて入試を厳しくしてエリートのみを入学させるという措置はあまり実行されていない．通常会員の学会運営への介入を嫌うのであれば，かつてヒットラーがドイツ民族の純血を叫んでユダヤ人を追放したように，通常会員制を廃止すべきである．定款で進歩と普及をうたいながら通常会員の参加を拒否するのは，憲法第9条がありながら4兆8千億円もかけて自衛隊を整備するのと同じではないか．

学会はアンケートの結果（本誌1969年7月号参照），通常会員の学会運営への参加という基本理念を了承し，運営検討委員会をして新定款案を提出せしめたのであった．然るに一部の特別会員は実務処理の困難を口実に，新定款案を総会にかけることを阻んでいる．学会の改革が叫ばれてから3年も経つのに，いまだに学会内部はこんとんとしている．前理事長は学会の割れるのを恐れてさらに慎重に話し合い，合意点に達するよう希望されたが，会員の多くはもうしびれを切らしている．中国問題について「慎重に対処」している佐藤内閣の頭上を跳び越してニクソンが突然訪中を発表したように，八方美人的な慎重政策は事態を悪化させるばかりである．民主主義社会では少数意見は尊重されねばならないが，最後の議決は多数決による．然るに総会では少数意見が多数意見を圧殺している．これは民主主義の原理にもとるものである．

宗教家は善を求め，芸術家は美を求め，学者は真を求める．真実の前にはプロもアマもない．アマの程度が低かったらそれを高めるよう手をかしてやればよい．学会の閉鎖性，封建性を打破する格調高い新定款案はすでに発表されている．この方向に沿って，私達は未来の日本の天文学史を行動によって書いてゆこうではないか．

（通常会員　佐藤明達）

（238 頁よりつづく）

決定され，45億年から大きく異なれば，オールトの仮説に対する反証となる．

以上からもわかるように，力学的考察により彗星起源に関する種々の仮説の中から不適当と考えられるものを排除することができる．しかし物理的考察も同様に重要であり，特に彗星の年代決定は非常に重要に思える．この意味において，何らかの方法で彗星物質を地上に持ち帰えることは非常に有意義であろう．